



題材名 「魅力を伝えるラベルデザイン」

第2学年 「A表現」(1)イ(1), (2)ア, 「B鑑賞」(1)ア(1), [共通事項](1)アイ

1 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色彩及びそれらが感情にもたらす効果, 造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。([共通事項])
- ・色鉛筆やパスなどの特性を生かし, 意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し, 制作の順序などを総合的に考えながら, 見通しをもって表す。「A表現」(2))

(2) 「思考力, 判断力, 表現力等」に関する題材の目標

- ・地域の魅力を伝えるために, 伝える相手や内容, 地域との関わりなどから主題を生み出し, 分かりやすさと美しさなどとの調和を総合的に考え, 表現の構想を練る。「A表現」(1))
- ・伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深める。「B鑑賞」(1))

(3) 「学びに向かう力, 人間性等」に関する題材の目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい, 主体的にラベルのデザインをしたり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

2 題材の評価規準

ポイント ① 育成を目指す資質・能力を生徒と共有する

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩及びそれらが感情にもたらす効果, 造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。(知識)	発 地域の魅力を伝えるために, 伝える相手や内容, 地域との関わりなどから主題を生み出し, 分かりやすさと美しさなどとの調和を総合的に考え, 表現の構想を練っている。(発想・構想)	態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的にラベルのデザインに取り組もうとしている。(主体的に表現の学習に取り組む態度)
技 色鉛筆やパスなどの特性を生かし, 意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し, 制作の順序などを総合的に考えながら, 見通しをもって表している。(技能)	鑑 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り, 作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深めている。(鑑賞)	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。(主体的に鑑賞の学習に取り組む態度)



題材の目標だけでなく, 評価についても生徒と共有していくことで, 評価の信頼性が高まります。

3 題材について

身近な生活の中にあるラベルデザインの目的や機能について考えることを通して, デザインへの関心や理解を深め, 生活の中にあるデザインについてより深く見つめる機会となることを願い, 本題材を設定した。地域の名産であるミネラルウォーターと関連付けて水の持ち帰り用ペットボトルのデザインを行うことを通して, 生活の中での美術の働きに関心をもつ態度を養い, 形や色の感じなどを基に, 目的に合わせて表現する能力を育てたい。

4 指導と評価の計画（6時間）

ポイント3 生徒の資質・能力が最も発揮される場面で見取る

時間	学習内容	評価の観点					備考
		知識	技能	発想 構想	鑑賞	態度	
1	生活の中で目にする既存のラベルデザインを鑑賞し、その目的や工夫を感じ取る。				○		参考作品は、生徒にとって身近な商品を用意する。 総合的な学習の時間の学習内容（地域学習）と関連付ける。 感染症対策として、広いスペースが確保できる体育館で行う。 主体的に学習に取り組む態度は、各資質・能力が発揮される場面で、その資質・能力と一体的に見取ることが重要です。
2	商品や地域の特性を考慮しながらコンセプトを決め、デザイン案を考える。	◎		○			
3	グループで自分の考えたデザインを発表する。			○			
4	各グループ代表の作品の鑑賞を行い、デザインのよさや工夫を感じ取る。鑑賞を通して考えたことを基に、自分のデザインを再構成する。		○	◎	○		
5	アイデアスケッチを確認・修正して発表の準備をする。		◎				
6	清書したものを発表し、互いに鑑賞する。				◎	◎	

※題材全体を通して意識すること⇒ **ポイント2 生徒のよさや可能性を見つけ、積極的に伝える**

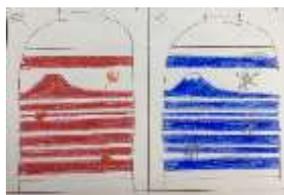
5 指導と評価の一体化に向けて

(1) ICTの効果的な活用について

本題材では、制作したラベルデザインを鑑賞する場面で、タブレット端末とプロジェクターを活用した。体育館のスクリーンに作品の画像を投影し、発表をマイクで行うことで、感染症対策を講じながら安全に鑑賞の学習を行うことができた。また、タブレット端末とプロジェクターを無線で接続しておいたことで、撮影から投影までがスムーズに行われ、生徒が待つ時間を短縮できた。タブレットの画面をそのまま投影できるので、作品上へのペン入力が可能で、説明の際に見て欲しいポイントに印を付けたり、直接文字を書き込んだりすることができた。撮影した作品の画像はそのまま保存される設定にしていたため、授業後の評価の材料としても活用できるという利点があると感じた。

(2) ワークシートの活用について

ワークシートについては、学習内容をメモするというだけでなく、学びの履歴が残るように項目や内容を意識して作成した。また、授業のねらいを生徒と共有するため、日々の学習履歴を記録するシートのとらに、「授業のめあて」を示した。ワークシートは発想や構想の場面だけでなく、鑑賞の場面でも使用することを考え、他者の意見を書き込めるスペースをつくるなど工夫した。



【作品例】



【ICT活用した作品発表の様子】

授業改善のポイントを、**ポイント1** **ポイント2** **ポイント3** で示しています。各ポイントの詳細は、**教育課程指導資料（冊子または、Web サイト）**をご覧ください。

Web サイトのQR コード

